



梓川倭の佐久間咲絵さん

タイトルの「オトナ... ははじまるぜい!」は、漫画家の高橋ヒロシさんが、成人式のパンフレットの表紙を飾るメッセージとして送った言葉です。

1月10日(日)、例年になり穏やかな日に「信念」とは? 『覚悟』とは?」をテーマに平成28年松本市成人式が市総合体育館で行われました。

振袖や袴、スーツに身を包んだ新成人がこの日の式に参加しました。梓川地区からは、91人の方が参加し、久しぶりの再会を喜び、晴れ姿を記念撮影する光景があちこちで見られました。

平成28年松本市成人式
「オトナ... ははじまるぜい!」

は、「今は学生ですので4年生までは、一生懸命勉強に取り組み、卒業したら社会人として、しっかりと働きたい」と、梓川倭の等々力悠弥さんは、「自分が大人になった実感はないが、親に感謝し今やれることを全力で行いたい。教員を目指しているので、夢に向かって頑張りたい」と、それぞれこれからの抱負を語ってくれました。

式の最後に一部ざわつく参加者もいましたが、梓川地区から参加された皆さんは、整然と振る舞い、その背中からは、これからの社会を背負っていくのだという強い気持ちを感じられ、頼もしい限りでした。



皆で滝見堂に移動し、松の枝を添え、道祖神にそれぞれ縄を結び、例年どおりの飾りつけが完了しました。

八景山こども会育成会では、12月27日(日)に、恒例行事となった滝見堂前の道祖神に、しめ縄の飾りつけを行いました。4年ほど前から、地区の河越勝さんを講師に、子供たちが縄の編み方を教わる活動が始まって、この日も公民館で、「ごぼう締め」と長い縄を作りました。

両手をこすり合わせるようにして、藁に撚りをかける最初のところが一番難しいと、4年生の金井渉君。お父さんの手の動きを見ながら、丁寧に仕上げました。

新年の準備
八景山町会

花見の御柱 松本市重要無形民俗文化財

花見町会では、元旦に御柱を建てます。早朝 6 時に小学生と P.T.A.・育成会・町会役員・隣組（輪番制）が公民館前に集合します。昔は道祖神の近く三カ所に御柱を建てていましたが、現在は公民館入口の「カ所」に建てます。前日に御柱（根本の直径が約 30cm、高さ約 12m）が運び出されて、割竹の横木が結わえられています。6 時半にその両端に子ども達を中心になりオンベを飾りつけます。そして 6 年生が金色のキンチャクをつけます。御柱の上の方に太陽を表わす全開の扇子（白地に赤い鶴と亀の絵柄）を、下の方に月を表わす半開の扇子（同様の絵柄）を松と共に飾ります。御柱の天辺には 3m ほどの青竹 3 本を開脚状に結わえ付け、それぞれに「天下泰平」「五穀豊穰」「耕地安全」の文言を大書した紙を結びます。建てる際には、曳き綱をつけてさす股を使い、初日の出と同時に初日の出の方角に向けて建てます。綱を曳くのは子ども達が中心で大人はさす股も使いながら御柱を押し上げます。建てた後は、お神酒で乾杯をし、解散となります。御柱倒しは、例年は 5 日前後ですが、今年は曜日の関係で 3 日と早めでした。



マグロ消費国 日本の挑戦！

11月29日(日)に、『世界初のクロマグロの完全養殖』に成功した、近畿大学名誉教授の熊井英水先生の講演会が梓川小学校で開催されました。

熊井先生は、塩尻市に生まれ、松本深志高校や広島大学水畜産学部水産学科を卒業後、昭和58年に近畿大学の教授に就任されました。

マグロと言えば、お寿司を想像する方が多いと思います。が、寿司文化の発祥は江戸時代後期の1818年頃で、「江戸前にぎり」から始まりました。しかしマグロは、地下の者（一般庶民）も食わずと言われ、室町時代（1444年）には、まずい魚とまで書物に記載されてきました。対照的に現代では、数千円の高値がつくほどの高級魚へと変化し、多くの方に親しまれています。そのような中、1970年から日本のクロマグロの完全養殖の挑戦が始まりました。

初めは天然採捕の幼魚の飼いつけも難しく、1979年になり、ようやく自然産卵に成功するも、マグロの卵は非常に小さく軽いので、生簀から流れ出てしまったり、空気

に触れるだけで死んでしまったりと、自然産卵には5年の歳月を要しました。しかし、ふ化した後も、共食いしてしまったり、マグロは光や音に非常に敏感なため、壁に衝突して命を落としてしまうこともありました。また、ヨコワ（クロマグロの若い魚）にいたっては、皮膚が非常に弱く、人の手で触れただけで腐ってしまうほどでした。こういった苦難を一つずつ克服し、32年の歳月を経て、ようやく人工養殖の産卵からふ化した仔魚を親魚になるまで育て、さらに産卵させるという『完全養殖』に成功しました。



▲養殖クロマグロと熊井先生

現時点では、産卵後1%しかクロマグロが育たないため、東京・大阪の限られた店舗でしか味わうことができませんが、近い将来、長野県でも完全養殖のクロマグロが食べられる日が来るかもしれません。

雑記帳

ここ何年か年初に楽しみにしていることがある。「本の福袋」である。ご存知の方も多いと思うが、梓川図書館でも実施されたイベントで、英字新聞に包まれている点も嬉しい演出。最初の年に手にしたときは実用書で、読み物を期待していた私は残念な気持ちになったが、今年こそはと毎年図書館に出かけた。昨年もあったが、見事にハマった。また一人、好きな探偵を見つけた。「鍵のかかった部屋」貴志祐介著の防犯探偵・榎本径が登場する小説である。嵐の大野智さん主演でTVドラマにもなったが、不覚にも私は観ていなかった。残念に思いつつも榎本径シリーズを必死に探し読み進めた。密室の謎がとにかく難しく、ことごとく仮説が崩されて愉快でもあり、真相がわからずもどかしかったりする。活字から離れがちだったが、やはり読書は面白い。さて、今年の「本の福袋」。何とか手にすることができた。今度はどんな出会いがあるだろう。

